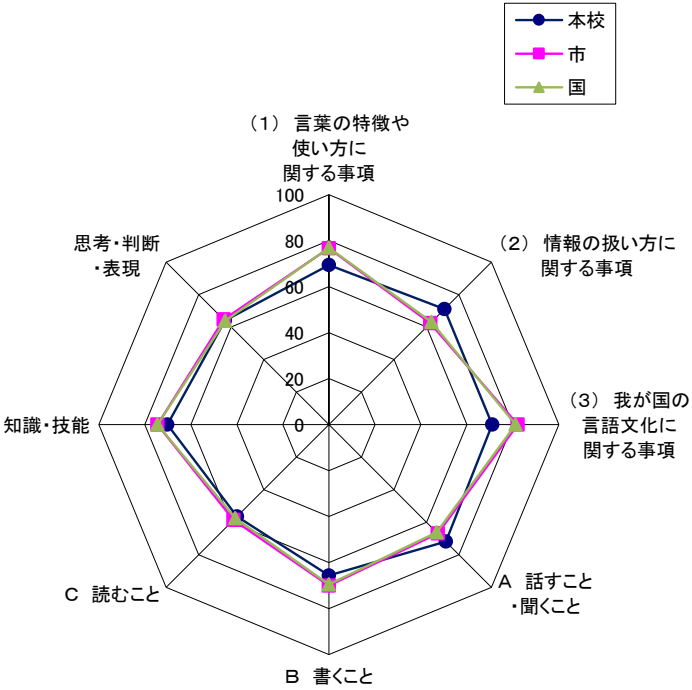


宇都宮市立桜小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	69.4	76.7	76.9
	(2) 情報の扱い方にに関する事項	71.0	62.4	63.1
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	71.0	82.1	81.2
	A 話すこと・聞くこと	72.0	67.0	66.3
	B 書くこと	65.6	70.0	69.5
	C 読むこと	56.5	58.6	57.5
観点	知識・技能	70.2	74.5	74.5
	思考・判断・表現	63.9	64.6	63.8
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、市や国の平均より低い。 ●漢字を使って書き直す問題では、市の平均正答率を7.3ポイント、国の平均正答率7.5ポイント下回った。	・定期的に漢字の学習に取り組み、スモールステップの課題を出しながら定着できるようにする。
(2) 情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は、市や国の平均より高い。 ○情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解使うことができるかどうかをみる問題では、国の平均正答率を7.9ポイント上回った。	・様々な形式の問題を解くことで学力の向上を目指す。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、市や国の平均より低い。 ●時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付く問題では、国の平均正答率を10.2ポイント下回った。	・時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いについての学習を意図的に取り入れるなど、言語文化を常に意識できるような機会を増やしていく。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は、市や国の平均より高い。 ○自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉える問題では、国の平均正答率を15.3ポイント上回った。 ●相手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる問題では、国の平均正答率を9.2ポイント下回った。	・グループやペアでの話し合いや、クラスや委員会、クラブ活動、代表委員会等の話し合いを通して、相手の考えと比較しながら自分の意見をまとめて述べる機会を設ける。また、自分の考えをまとめる学習活動を意図的に取り入れた授業を展開する。
B 書くこと	平均正答率は、市や国の平均より低い。 ●書く内容の中心を明確にし、文章の構成を考えることができるかを問う問題では、国の平均正答率を7.4ポイント下回っている。	・書く内容の中心を明確にし、文章の構成を考えながら書き表すことができるような学習を増やす。
C 読むこと	平均正答率は、市や国の平均より低い。 ●文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができるかをみる問題では、国の平均正答率を9.4ポイント下回った。	・文章から読み取れる情報や作者の意図を深く理解し、文章の構成や要旨を捉える学習を取り入れる。また、様々な文章を読むことに慣れるため、いろいろな分類の本を紹介し、読書の幅を広げるよう指導していく。